

見学お役立ちシート

名称	八千代座
住所	〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿1499
電話番号	0968-44-4004
地図URL	https://goo.gl/maps/N6JDctxvxE7zuVm7
営業時間	【八千代座】9:00～18:00（最終受付17:30） ※公演などで見学できない日があるため、施設に確認してください
見学所要時間 （目安）	所要時間 夢小蔵：約15分、八千代座見学：約30分 ※時間は目安です （八千代座の中には靴を脱いで入ります）
料金	（共通入館料） 一般 730円 小学生・中学生 370円
時代	近現代（明治43年）
駐車場・トイレ	駐車場あり トイレあり
参考URL	https://yamaga.site/?page_id=2
出典	『山鹿市の指定文化財』10頁、文化庁国指定文化財データベース（ https://kunishitei.bunka.go.jp/ ） 『山鹿のてびき 山鹿観光事典』72～77頁
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・重要文化財（建造物）（昭和63年指定） ・桁行35.3m、梁間30.6m、二階建、入母屋造、妻入、正面庇、庇上両端二階付、入母屋造、客席・左右両面二段庇、舞台及び楽屋廻り三面下屋付、奈落を含む、棧瓦葺、便所及び渡廊下附属。 ・山鹿市の町なかにある劇場で、劇場建設組合を設立し、資金を集めて建築されました。建物は規模の大きな二階建て、内外とも和風の意匠によっていますが、小屋は木造の洋小屋となっています。 ・廻り舞台、奈落、客席、楽屋など当初の姿をよく残しています。また建設当時の文書類も受け継がれており、建築事情を知ることができます。 ・明治時代の山鹿は、熊本県北の商工業の中心的都市でした。水陸交通の要衝で物資の集散地、また、県内屈指の温泉場として繁栄していました。商工業種では、養蚕、製糸が有名で、生産量は県内で上位を占めていました。 ・八千代座を設計した木村亀太郎は、安政6年（1859）山鹿大橋近くの回船問屋の長男として生まれています。亀太郎は、設計した主なものとしては、鹿本鉄道山鹿駅本社、山鹿尋常高等小学校校舎、薬師堂、熊本市の「東雲座」隈町（現在の菊池市）の「桜座」などがあります。八千代座を設計したとき、亀太郎は50歳でした。設計にあたっては、東京、大阪、下関、長崎、熊本などの全国の芝居小屋を丹念に見学し、また、上海にも渡って建築の勉強に励みました。特に熊本市の大和座と東京の歌舞伎座に八千代座の原型を求め、大和座には大工棟梁の泉仁平と何度も足を運んでいます。 ・八千代座を象徴するものに天井広告画があります。天井と欄間に広告絵を張り、広告収入を得ることを思いついたのは亀太郎でした。看板屋に発注する下絵も描いており、平成の大修理では現存する32枚の下絵を基に建設当初の広告画が復原されています。 ・八千代座の名前の由来は記述がないためわかりませんが、千代に八千代に長く続いてほしいという願いをこめて「八千代座」と名付けられたのではないかと考えられます。